

ピアロライト 施工要領書

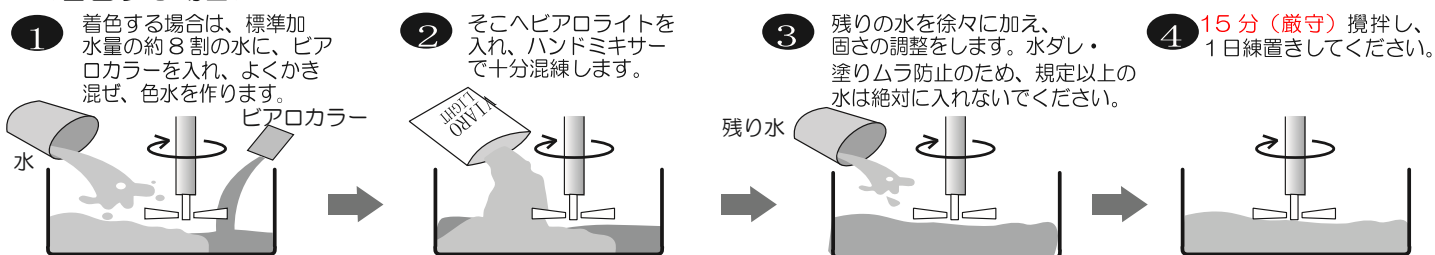
下地

- 最初にピアロ専用下地シートのツルツル面が表で貼られていることを確認してください。また、シートに膨らみやジョイント部分に浮きがある場合、適切な処理をしてください。
- シート施工後、中1日程度経過し糊が完全に乾いている事を確認してください。

練り方

- 加水量は、ピアロライト（10kg/袋）に対して、**13L**を基本とします。季節や現場の状況に応じて**500ml**まで加水する事が可能です。
- （**13.5L**以上の水は**絶対に入れないでください**。2回塗りでは止まらず、塗りムラの原因となります。）
- 練樽の容量は**30L～50L**以上のものをご用意ください。（後練の材料を注ぎたす際にも便利です。）
- 練樽が樹脂性の場合、ハンドミキサーのプロペラ部が鋭利なものは使用しないでください。練樽が割れる恐れがありますので、ご注意ください。

<着色する場合>



<着色しない場合>標準加水量の約8割の水に、ピアロライトを入れ、ハンドミキサーで十分混練します。あとは、③④上記と同じです。

塗り方

- ピアロライトはウールローラー（中毛）での**2回塗り**を基本とします。（目安塗布量：240g/m²）
- 塗布量はたっぷりと付けて、縦横にしっかり丁寧に塗り、最後にはローラーの目を揃えてください。塗布量が少なく材料を薄く延ばしてしまうと、塗りムラの原因となります。
- 2回目の仕上げ塗りは、1回目の塗布材が完全に乾いてから施工してください。（特に冬場は注意してください。）
- 取り合い部・入隅部は、予め刷毛で塗って、追っかけてローラーで仕上げてください。
- 面積が広い天井や吹抜け等の大壁は表面が乾かない内に複数人で一気に仕上げてください。（1回目・2回目共）
- 塗り継ぎは**絶対にしな**いでください。塗りムラの原因となります。

施工上の注意事項

- 使用するローラーは中毛（ウールローラー 13mm）を使用して下さい。【注意】ピアロライトは粘性がありますので、**マイクロファイバーローラーは使用しないでください**。後れ毛が発生いたします。
- ピアロ専用下地シートを張り付け後、中1日程度を置いて糊が完全に乾いた事を確認し、施工して下さい。
- 施工前には、巾木、廻り縁、枠、床などの養生を確実にしてください。
- 白木部はマスキングテープ等で養生して下さい。強アルカリ性なのでアクが出てシミになる場合があります。
- 白木部などに塗材が付着した場合は、「無水エタノール」で速やかに拭き上げると効果的です。
- 施工時もしくは施工後に、5℃以下になる恐れのある場合は、施工しないでください。
- ④の攪拌時間および練置き時間が短いと、粉が溶けきれずダマの原因となり施工性、仕上りにも影響をおよぼしますので、ご注意ください。また、攪拌時間の**15分はインターバルをとって5分を3回でも構いません**。
※材料は前日に練置きしてください。材料が馴染んで滑らかになり、施工性も良く仕上がりも一層綺麗になります。
- 練置きや残った塗材は、マスカー等で完全密閉しておくとし4～5日程度は使用可能です。再使用の際は、**5分程度**攪拌してください。
- 練置きをしている材料を、休憩後に施工される場合は、**2～3分程度**攪拌してください。

*施工要領の詳細に関しましては、弊社ホームページ（<http://viaro.jp/>）をご覧ください。

ピアロライトの施工要点

【施工要領書の中で特に大事な部分を、要点としてまとめましたので**必ずお読み**ください。】

※練樽は **30L~50L** のものをご用意ください。

※材料は必ず**前日に練置き**をして下さい。(施工性と仕上がりが一層よくなります。)

加水量はピアロライト(10kg/袋)に対して **13L** を基本とします。季節や現場の状況に応じて **500ml** まで加水する事が可能です。

(**13.5L** 以上は**絶対に入れないでください**。2回塗りでは止まらず、塗りムラの原因となります。)

※攪拌時間は、**15分(厳守)** です。(インターバルを取って5分を3回でも構いません。)

攪拌時間、練置き時間が少ないと粉が溶けきれず施工、仕上がりに影響します。

練った材料は、空気が入らないようにマスキングを直接材料に密着させて保管してください。

再使用する際には、**5分程度**攪拌してから施工してください。

※使用するローラーは(中毛ウールローラー 13mm 一般普及品) を使用して下さい。

【**注意**】ピアロライトは粘性がありますので、**マイクロファイバーローラーは使用しないでください**。
後れ毛が発生いたします。

※ピアロライトは **2回塗り** です。1回目の塗布材が**完全に乾いてから**、2回目の仕上げ塗りをして下さい。

乾いていないうちに2回目を塗布すると、塗りムラの原因となります。

※取り合い部・入隅部は予め刷毛(1回で結構です。)でしっかりと塗って、乾かないうちに追っかけてローラーで仕上げして下さい。

面積が広い天井・吹き抜け等の大壁は複数人で一気に仕上げてください。

塗り継ぎは絶対にしないでください。塗りムラの原因となります。

※塗布量は**たっぷり**と付けてください、EP塗料のように薄く延ばしていくのではなく、ある程度の塗厚を必要とします、薄く延ばしすぎると2回塗りでは止まらず、塗りムラの原因にもなりますのでご注意ください。

(他社外国製の製品でよく似た工法の塗料がございますが、塗材の性質が全然違いますので、決して同じ施工方法ではしないでください。クレームの原因になります。)

以上、上記に記載していない詳細事項に関しましては、**施工要領書**をご覧ください。